

## 第3回上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会 会議録

【日時】平成29年11月20日（月）14:00～17:15

【出席者】委員 13名

担当課

（教育総務課） 3名

（社会教育課） 3名

（総務課） 2名

（まちづくり推進課） 2名

（福祉課） 1名

【欠席者】委員 1名

【傍聴人】 3名

【事務局】 5名

### 1. 開会

- ・事務局配付資料確認

### 2. 委員長挨拶

### 3. 上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会における取組内容の検証について 教育総務課実施の事業

#### （1）ICTを活用した教育支援

担当課：<ICTを活用した教育支援について説明>

牧浦委員：上牧町におけるICT機器とは何を指しているのか。他のICT先進地域では一口にICTといっても多様である。何を始めて、今後どのように取り組んでいくのか。

担当課：始めに各学校に無線LANを整備し、その後、全教職員へタブレットPCを配布した。教職員がタブレットPCを使いこなせた時には、財政面も考慮して、生徒4人に1台程度の割合で導入する。

牧浦委員：タブレットPCというのはiPadのようなものか。また、他地域では実施されている電子黒板やタブレットPCの画面を映し出すようなことは行うか。

担当課：電子黒板ではなく、プロジェクターを使ってスクリーンに映すことを考えている。

牧浦委員：財政的なこともあると思うができるだけ早く実現させてほしい。

委員長：平成28年度1,000万円強の予算について、事業内容には研修を行うと記載がある。研修だけで1,000万円を使用するとは考えにくい、どのような事業か。

担当課：予算は研修費用ではなくパソコンのリース料である。

辻委員：タブレットPCは全体で何台導入したのか。事業対象は小学校か、中学校か。研修を行

った結果はアンケート等を取ったのか。

担当課:将来的には小中学校の全てを対象とする。研修のアンケート結果については『達成度』の『理由』欄に記載している。タブレットPCの導入は、全教職員とはなっていないが、社会や理科では導入が進んでいる。

竹島委員:目標値である“県平均以上”について説明を求める。

担当課:年に1回4月に全国学力調査が行われており、その調査内で生徒に対して該当のアンケートを取っている。そのアンケート結果の向上を目標としている。

鶴谷委員:予算の使途と事業の取組内容が一致していないので、『取組内容』にはPCを使いやすくする環境を整え、その環境をより活用するための研修を行うという旨を記載して内容を一致させること。

委員長:PCをリースしているということを記載すること。可能であれば、タブレットPCについて生徒への配布割合を何人に1台から何人に1台へ引き上げる等の具体的な目標を記載する。また、平成29年度の備品の予算について、588万6,000円の使途は何か。

担当課:各学校にタブレット、プロジェクター、スクリーン及びその台を1セット購入した。

委員長:『今後の取組』にそれを購入する予定であると記載すること。

## (2) 子どもの読書活動の推進

担当課:<子どもの読書活動の推進について説明>

辻委員:読書活動とは具体的にどのようなことか。読書活動という言葉だけではわかりにくい。

担当課:学校で朝10分間読書タイムを設けている。家や図書館から持ってきた本を読む。

辻委員:毎日行っているのか。

担当課:毎日である。

西山委員:目標値について、計画ではボランティアの人数によって測るとなっているが取組内容とは一致しない。どのように考えたらよいか。

鶴谷委員:図書館の貸し出し冊数や利用人数であればわかりやすい。現状では評価しにくい。

委員長:学校で行っていることに対してボランティア数で評価することは難しい。すでに設定している目標値の変更は可能か。

事務局:総合戦略で記載している目標値自体は変更できかねるが、評価シートに別数値を載せることは可能である。

委員長:達成度について、現在の目標値『ボランティア数』では評価が適切でないので、『今後の取組方針』へ、子どもが読書に対する関心や楽しみがあるかどうかを調査するアンケート等の代替評価方法について検討すると記載すること。『取組内容』に読書活動の具体的な内容を記載すること。

委員:『今後の取組方針』に“大人が本を読む姿”とあるが具体的には何を示しているか。

担当課:読書活動中に担任の先生と一緒に読書している姿を生徒に見せるということ。

委員:ここでいう大人とは親ではないということか。

担当課:親ではない。担任の先生を大人としている。

牧浦委員:図書室の充実について意見要望はあるか。

担当課:予算作成時に蔵書率を調べており、毎年蔵書率 100%を達成するようにしている。

牧浦委員:小学生から図書室の本が面白くないという意見を聞いたこともある。蔵書率は 100%となるように希望する。

委員:教育の現場ではなく、家庭内の取組において大人の役割は無いか。家庭で子どもの読書習慣をつけることを『取組内容』に記載できないか。

委員長:この事業は小学校での取組で、家庭内の取組を記載することは事業内容にそぐわない。ただし、別事業の検証時に念頭におくこととする。

この事業のまとめとしては、『事業内容』を具体的に記載すること、『今後の取組』で評価の在り方について記載すること。また、『町関与の必要性』は学校の授業の中で行っていることなので『必要性が高い』とすること。

### (3) 地域における保育環境の改善事業

担当課:<地域における保育環境の改善事業について説明>

西山委員:『ニーズの方向性』について『現状と変わらない』と記載しているが説明を聞くと、『増加する方向にある』と感じた。

辻委員:保護者からのニーズもあり、予算も拡大している、事業の見直しの欄にも前向きに記載がある。『ニーズは増加する方向にある』ではないか。

担当課:『ニーズは増加する方向にある』へ変更する。ただ、ニーズの全てに応えられるかどうかはわかりかねる。

白銀委員:『今後の取組方針』で“特色のある公立幼稚園として魅力を PR し”とあるが、どのような PR 方法か。

担当課:幼稚園ではこれまでホームページを持っていなかったが、開設したのでホームページを用いて PR する。また、広報でも PR を行う。

委員長:『事業の取組内容』について、事業は“英語教育”と“空調設備”と“一時預かり”の3事業か。

担当課:この事業では“空調設備”と“一時預かり”になる。英語教育は別事業である。

委員長:それでは英語教育の記載を削除すること。空調設備と一時預かりについて、具体的に記載すること。予算が委託料だけで、空調設備の予算が計上されていない。用途の説明を求める。

担当課:空調設備は平成 28 年度以前の平成 27 年に整備しているので表には記載されていない。

委員長:委託料の用途は何か。

担当課:一時預かりの委託料である。

委員長:本事業評価は平成28年度の検証であり、“空調設備の整備”は平成27年と過去に行っ

た事業になるので、今回の『事業内容』に記載するかを検討すること。“一時預かり”について具体的に記載すること。また、目標値は園児数だけであるが、一時預かりが取組事業であるので、一時預かりの園児数を記載すること。平成 28 年の園児数の実績数は何人か。

担当課:158 人である。

委員長:160 人の目標、158 人の実績であれば『概ね目標の成果が得られた』で良い。『町関与の必要性』には、町立の幼稚園である旨を記載する。

鶴谷委員:平成 28 年度より平成 29 年度の予算が増額となることについて、『今後の方向性』に記載すること。予算増額の理由は預かり時間の増加か。

担当課:預かり時間に増減はないが、支援を要する子どもが増えるので予算が増額となった。

鶴谷委員:予算の増額理由を『今後の取組方針』に記載すること。

#### (4) 英語教育の充実

担当課:<英語教育の充実について説明>

担当課:評価シート中の運動教育に関する記述及び予算下段について削除する。

委員長:運動に関する部分はすべて削除するということか。

担当課:削除する。

竹島委員:『達成度』の内容は運動教育に関する部分を削除するのであれば文言を再考すること。『今後の取組方針』を具体的に記載すること。

鶴谷委員:目標値について、何をもちて 60 回とするか、対象者等を含めて具体的に記載すること。

担当課:英会話教室と体育教室と併せて 60 回と考えている。英会話教室はおおよそ目標を達成できてきている。

鶴谷委員:対象者は幼稚園全体か。

担当課:全体である。

牧浦委員:『事業の見直し余地』について、“幼児が対象であることから、成果の見極めが困難”とあるが、ネイティブな英語を聞かせることこそが成果なのではないか。達成度にこのことを成果として記載してはどうか。

委員長:『見直し余地』については、特に問題なければ『見直す余地がない』でも構わない。

西山委員:『ニーズの方向性』について『増加する方向にある』と設定しているが、具体的にどのようなニーズがあるか記載し、『事業の見直し余地』にその解決法を記載すること。

委員長:全体から運動教育に関する記載を削除すること。『ニーズの方向性』ではニーズの内容を具体的に記載すること。『事業の見直し余地』については、無しなら無しとすること。

#### (5) 体育教育の充実

担当課:<体育教育の充実について説明>

担当課:評価シート中の英語教育に関する記述及び予算上段について削除する。

竹島委員:『達成度』、『事業の見直し余地』、『今後の取組方針』を具体的に記載すること。また、『今後の取組方針』に記載のある基礎体力の指導について説明を求める。

担当課:昨今問題になっている体力低下に対して、基礎体力を向上させることで、体力も向上させることが狙い。基礎体力は教えて上昇するものではなく、鉄棒や縄跳びを実践しながら基礎体力をつけていく。

竹島委員:基礎体力は走ることは違うのか。鉄棒と縄跳びに限るような表現に取れるので変更すること。

辻委員:『ニーズの方向性』について、幼稚園では、転び方もわからない園児がいると言われる中、毎朝園庭で園児が走り回っている。これまでも良いことを行ってきたが、さらに事業を始めたと記載してはどうか。

委員長:予算について、委託料が計上されているが、外部から招聘しているということか。

担当課:その通りである。

委員長:『取組内容』に外部から指導員を招聘して鉄棒や体操を行う体育教室を開催していると記載すること。

担当課:年齢に応じた遊びを兼ねた運動をスポーツクラブから指導してもらっている。

梶野委員:上牧幼稚園では乾布摩擦をして、風邪をひく子が減った。運動以外にも記載してはどうか。

委員長:各項目を具体的に記載すること。『事業の見直し余地』の書き方を検討すること。『今後の取組方針』を具体的に、これまで取り組んでいたことと異なる部分について記載すること。

## (6) 通級指導教室の充実

担当課:<通級指導教育の充実について説明>

鶴谷委員:『達成度』について、“達成できていない現状”とはどのような状況か。

担当課:支援を要する子どもたちに、先生とは別に支援スタッフを配置しているが、子ども1人に対して支援スタッフ1人という体制になっておらず最低限しかいないということ。

委員長:具体的に現在の人数等の記載をすること。目標値の1人について説明を求める。

担当課:目標値の人数はペガサス教室の特別支援教育の指導員数を記載している。特別支援教育は通級教室と異なる。通級教室は特別支援教育と一般教育の間の状態にある生徒のための教室で、今後特別支援教育を受けるか一般教育を受けるかを見極めるための教室でもある。

竹島委員:その内容を『今後の取組方針』に記載すること。

委員長:『達成度』の通級教室、支援スタッフ、特別指導を分けて具体的に記載すること。

担当課:そのようにする。

牧浦委員:小学校現場からは、上牧町の支援は充実している、助かっている、生徒からの評判も良いと聞いているが、評価シートでは良し悪しが分かりにくいので、良いところも記載する

こと。

委員長:優れていることは記載すること。『事業の見直し余地』は、通級教室と特別支援教育を分けて誤解のない文書を記載すること。『今後の取組方針』についても通級教室と特別支援教育のことを記載すること。

#### (7) 県や地域と連携した学習体験・交流活動の実施

担当課:〈県や地域と連携した学習体験・交流活動の実施について説明〉

竹島委員:職場体験とは異なるか。

担当課:この事業は、板前が学校に来て魚をさばくなどを見せ、子供たちに色々な仕事があることを理解してもらう事業で職場体験とは別事業になる。

委員長:『取組内容』を具体的に書くこと。目標値の交流活動は何回あったか。

担当課:1回である。

委員長:その時に来た人、場所を記載すること。『ニーズの方向性』に職場体験の内容が記載されているので、学校に来てもらうことに対する内容に変更すること。

竹島委員:予算が計上されていないが来てもらう人はボランティアか。

担当課:その通りである。

西山委員:総合戦略ではふるさと教育の充実とうたっている。上牧町にある仕事や職業をわかってもらうという趣旨もあるので記載すること。

委員長:職場体験と分けて記載すること。『取組内容』には具体的に回数等を記載すること。別紙の予算と評価シートの予算が合わない。

事務局:評価シートが正しい。訂正する。

#### (8) 県内優良企業や町内企業における職場体験学習

担当課:〈県内優良企業や町内企業における職場体験学習について説明〉

西山委員:『県や地域と連携した学習体験・交流活動の実施』と同様に、この事業もふるさと教育なので上牧町の職業を知ってもらうこと、地域愛を育むことも記載すること。

鶴谷委員:ふるさと学習の充実のためには、受入企業に町内の会社数を増やし、受入学生の数を増やすこととなると思う。現状の受入企業数を記載すること。

辻委員:『取組内容』について、何をどのように何回して何人参加したか具体的に記載すること。

委員長:『取組内容』を具体的に書くこと。目標値の内容について、町内の協力企業数を記載し、企業数を増加させる等の新規指標を考えること。

竹島委員:『県や地域と連携した学習体験・交流活動の実施』と『趣旨・目的』が同じである。

委員長:この事業についての取組内容についての趣旨・目的も記載があると良い。

事務局:総合戦略に記載がある『趣旨・目的』を記載している。来年度の検証シートでは留意する。

牧浦委員:事業について、実際に生徒を見に行ったことはあるか。

担当課:ない。

牧浦委員:評価シートに書いてあることは正しいが、実際に見に行けばもっと記載でき、町の PR となる。

萩野下委員:アピタでも受け入れを行い、生徒にも好評だった。アピタにはたくさんの職種があり、多様なニーズに応えられ、これは生徒の経験にもなる。事前に連絡をもらえれば協力する。総合戦略には子育てや移住につなげる目的があるので、事業内容の具体的な魅力をわかりやすい言葉で伝え、子どもを育てたい、長く住みたいと思わせるようにすること。

委員長:『取組内容』を具体的に記載すること。結果に直結する目標値が無いので、今後の評価指標を加えるよう検討すること。

## 社会教育課実施の事業

### (9) 学校支援事業の研究・協議

担当課:<学校支援事業の研究・協議について説明>

竹島委員:『ニーズの方向性』にボランティアが必要とあるが、すでにかかなりのボランティア数があるのでないか。

担当課:平成 28 年は 224 名のボランティア登録となっているが、学校の要望は学校支援ボランティアで、地域の要望は環境支援ボランティアとニーズが合致しない。

竹島委員:実際に必要なボランティア数は何人か。

担当課:学校支援については各校 10 名ほど欲しい。

委員長:『取組内容』の記載について、多数の事項の記載があるがこれは運営委員会で事業計画を策定しているか。

担当課:学校と各学校 1 名いるコーディネーターが策定して、それを運営委員会で議題としてかける。

竹島委員:ボランティアはどのようなことをしているか。

担当課:当事業は運営委員会への評価なので、別事業『学校を中心としたコミュニティ網の形成』の取組内容内で記載している。

委員長:当事業と別事業の違いが分かりにくい。当事業は“学校支援事業の研究・協議”となるので地域と協力していく中での事業を記載しているのか。

担当課:そのように考えている。年 2 回の運営委員会の内容について記載している。

委員長:当事業と別事業の違いが明確になる記述をすること。

担当課:ここでは研究協議の場に出てきた結果を記載している。

辻委員:ボランティアの各分野、各学校の現在の人数と要望人数を記載すること。絶対数は多いと感じる。

白銀委員:ボランティア募集内容を記載するとわかりやすい。

担当課:指摘通りに各校区の事業ごと、ニーズごとで記載する

委員長:3 つをわかるように記載すること。委員会に対して重点的に記載すること。

鶴谷委員:『今後の取組方針』には、ボランティアのニーズのギャップをなくすために研究やアンケート等を用い改善を検討することを記載すること。

担当課:アンケートを実施したい。

委員長:ボランティアそのものの話を主題にするのではなく、運営委員会の開催回数、メンバー、持ち方、議論の進め方を記載すること。

#### (10) 学校を中心としたコミュニティ網の形成/子育てにおける様々なコミュニティ形成プログラムの企画・運営

担当課:2事業は関係性が深く評価、予算等が同一なので同時に説明する。

担当課:<学校を中心としたコミュニティ網の形成/子育てにおける様々なコミュニティ形成プログラムの企画・運営について説明>

鶴谷委員:同じボランティアが2つの役割を兼ねているか。

担当課:その通り。

竹島委員:予算は2事業合算か。

担当課:兼ねている。

竹島委員:『学校支援事業の研究・協議』ではボランティアは足りないと評価したが、当事業では足りているのか。

担当課:ニーズが合致しない分野の人は足りていない。

竹島委員:目標値実績224人の団体は1つか2つか。事業によってボランティア数が“足りない”、“増えた”ではわかりにくい。

担当課:1つである。表現について精査する。

牧浦委員:ボランティアはどの分野が足りないのか。足りているイメージがある。

担当課:学校により異なる。

白銀委員:実際に授業のお手伝いに行ったが、教室に先生が2人、ボランティアが3人いた。支援はどういったところで求められるのか。

担当課:中学校での放課後学習で見守りボランティアが少なくて困っているということは聞いている。

委員長:『学校支援事業の研究・協議』『学校を中心としたコミュニティ網の形成』『子育てにおける様々なコミュニティ形成プログラムの企画・運営』の3事業を明確に分けること。

『学校を中心としたコミュニティ網の形成』は学力向上に関することを記載すること。

鶴谷委員:ボランティアの学校による差異を減らすことが方針になる。絶対数はあるので、差の調整をする、質を変えるということが今後の方針となる。他2事業について子育てと学校を区別すること。

委員長:ここでは結論を出せない。3事業の違いが分かるように、特に『学校を中心としたコミュニティ網の形成』『子育てにおける様々なコミュニティ形成プログラムの企画・運営』の2事業は同じことが記載してあるが、2つに分けている理由が不明。これから1事業にするこ



とはできるか。

事務局:できかねる。

委員長:できないのであれば2事業の違いを記載する。言葉通りに解釈すると1つ目は学力について、2つ目は地域のつながり、3つ目はつながりを用いた具体的な事業を記載する。就学、未就学で分けても良い。予算の振り分けについても、違いを明らかにすること。評価はそののちに実施すること。

担当課:違いを明らかにする。

委員:パートナーシップ事業は多岐にわたるので1事業へまとめることは難しい。総合戦略の目的である人口増加のためには、草刈り、交差点の見守り等の優れた点を記載できればPRになる。

委員長:3事業についてはもう一度検討すること。

### (11) 様々な専門講座の開催

担当課:<様々な専門講座の開催について説明>

西山委員:『達成度』について『概ね目標の成果が得られた』としているが、その説明に“参加者をたくさん募る必要がある”となっているが説明になっていない。『ニーズの方向性』では意見・要望があるように設定しているが『現状と変わらない』と評価している。増加ではないか。

担当課:『達成度』について、広報等で募集しているが広報を見ていない人も多く想定より集まらない。知り合いや団体を通じてお願いして参加者を集めた。ニーズは参加者に対して意見を聞き、学習をしていきたいと意見があった。

西山委員:『概ね目標の成果が得られた』とした具体的な成果は何か。ニーズは今までも要望があったから現状と変わらないのか。

担当課:精査する。

白銀委員:孫が参加して喜んでいて。ただ、参加した次年度は参加できなかった。参加希望者が参加できるように、日程も含めて色々なニーズを取り入れるようにすること。

竹島委員:達成度が低いのは事業に魅力がないからではないか。独自性のある事業を実施すれば参加者が増える。たとえば、事業内容にあるドッグセラピーはどのようなものか。

担当課:事業実施にあたり内容は精査しているが子ども達のニーズも多様化している。ドッグセラピーは犬とふれあい子どもたちが精神的に落ち着くという授業、多くの子どもからは好評だが、犬に興味のない子どももいるために求めている参加者数に達しにくい。

竹島委員:学校に対してニーズ調査は行っているか。

担当課:社会教育課では教職員へお願いするのではなく自分たちで考えて行っている。

竹島委員:町民からすると教育委員会の事業なので、教育総務課だから、社会教育課だからと分けない。その考えでは参加者が少なくなる。対象が子どもなのであれば学校で参加したい内容についてアンケートを取る。

委員長:2016年度には専門講座を3回行ったか。

担当課:その通り。

委員長:ジュニアリーダー研修の中の工作教室で1回か。

担当課:2016年度は体験学習の工作教室とドッグセラピーと和太鼓体験の3回である

委員長:ジュニアリーダー研修の工作教室は何か？

担当課:体験学習とジュニアリーダーの工作教室の内容は同じである。訂正する。2016年度は全体で4回である。

委員長:4回の内訳が分かるように記載すること。回数は目標に達しているが参加者を増加させると『今後の取組方針』に記載すること。

## (12) スポーツ教室や野外活動教室の開催

担当課:<スポーツ教室や野外活動教室の開催について説明>

辻委員:ジュニアリーダー研修の参加人数は何人か。この研修で受けるとどうなるか。

担当課:ももとは子供会で高学年の児童にグループを指導するチカラを身に付けてほしいということが目的のもの。町では小学校5年生以上が対象で中学生高校生と続き、成人した後にはジュニアリーダーを育成する立場になってもらうもの。子ども会が縮小している現在では、技量を身に付けても地域に受け皿がなく行き詰まりを感じている。2016年の登録人数は40人である。

鶴谷委員:いつから始めているか。

担当課:はっきりとはわかりかねるが30年以上前からある。1期生は県のボランティア協会で指導を行うようになっている。

鶴谷委員:1期生のようなリーダーを育成していかなければならないのであればそのことも記載すること。『今後の取組方針』には、続けていくことでリーダーをつくる、子ども会が弱くなっているということを記載してはどうか。指標ではないことも記載してよい。

梶野委員:青少年健全育成事業は県が行っている事業で長くあるもの。社会情勢から子供会の縮小は避けられない。教育の現場でリーダー育成研修はあるがなかなか参加できないので、現在の情勢を踏まえて今後を検討すること。

委員長:子供会が縮小したので、地域からのリーダー育成の要望について評価しにくい。小学生がグループ活動を体験することは社会的意義が高いので、子供会のリーダー養成だけにとらわれず記載すること。子ども会のリーダー養成の評価だけに絞ると評価ができず事業の『廃止・中止』となる。本事業をリーダー育成に絞る場合は『様々な専門講座の開催』事業に記載しているリーダー研修は削除することを検討すること。

辻委員:テント生活を経験することは災害時の観点からも重要なので『ニーズの方向性』に記載してはどうか。

委員長:従来の子供会のリーダーの役割だけではなく広くとらえても良い。

### (13) すべての学習活動を道徳教育や人権教育を意識し推進

担当課：＜すべての学習活動を道徳教育や人権教育を意識し推進について説明＞

竹島委員：具体的に年何回どのようなことをしている等を記載すること。

委員長：事業内容に記載のあるヒューマンライツセミナーと指導者研修会が実施内容となるか。

担当課：人権に関しては、県や郡と共同で行っているため全体ではかなりの回数と参加人数になる。町単独では記載のあるヒューマンライツセミナーと指導者研修会になる。

委員：『達成度』には町以外でも行っていることを記載すること。

白銀委員：人権は北葛城郡4町で行っていることを具体的に記載する。

担当課：県、郡の行事も明記する。

### (14) 久度古墳群の文化財の保存及び整備の推進

担当課：＜久度古墳群の文化財の保存及び整備の推進について説明＞

竹島委員：パンフレットは未作成なので『目標とする成果は得られなかった』とあるが、『事業内容』を見るに国史跡に指定されたこと自体が成果である。

西山委員：目標値のパンフレット作成はできていないが、中間年であることと史跡指定を受けたことを考えると概ね達成ではないか。

担当課：変更する。

竹島委員：パンフレットの作成のみをとらえて『目標とする成果は得られなかった』として、何もしていないように記載するのはもったいない。また、予算の委託料について、年によって上下するのはなぜか。

担当課：平成28年度には発掘調査、平成29年度についても発掘調査を行ったが規模が前年度より小さくなった。平成30年度は保存計画を行う。

辻委員：『今後の取組方針』について、整備は良いが、久度古墳群を観光資源として人を呼び込むための観光ボランティア募集養成などを入れてはどうか。

担当課：整備検討委員会内で検討する。

委員長：『達成度』を『概ね目標の成果が得られた』に、パンフレットは作成していないが全体としては概ねできていると記載すること。今後の観光視点を含めて効果的なパンフレットを作成すると記載すること。また、『今後の方向性』で“事業費が拡大”とあるが予算の金額は縮小しているので変更を検討すること。事業費は調査終了後には大きく上下しないというようなことを記載すること。

## 総務課実施の事業

### (15) コミュニティバスの利用促進

担当課：＜コミュニティバスの利用促進について説明＞

西山委員：『ニーズの方向性』『事業の見直し余地』について、平成28年か平成29年かわかりにくい。年度内の表現を年度と変更すること。

担当課:そのようにする。

竹島委員:アンケートの結果は来年度予算に反映できるか。

担当課:結果によっては有料化、ルート変更、停留所の増加などの可能性がある。その結果を検討してから方向性を決めるので、予算化は平成 31 年度からになると考えている。

#### (16) 防災訓練の定期的な実施支援

担当課:<防災訓練の定期的な実施支援について説明>

竹島委員:予算について平成 30 年度と平成 31 年度が空欄であることについて説明を求める。

担当課:平成 30 年度は平成 29 年度と同額、平成 31 年度はまだ不明のため空欄とした。

鶴谷委員:予算の需用費は使途は何か。

担当課:炊き出しの食糧費、消火訓練に使う材木。

鶴谷委員:回数が増える等はなく今後継続となるか。

担当課:そのとおりである。

委員長:目標値について 2016 年度は 36 団体が参加したということか。

担当課:2017 年度は 37 団体となる予定。

委員長:『達成度』について、参加団体が目標値より大きく増えていると記載すること

担当課:記載する。

白銀委員:平成 29 年度は第 3 小学校区であると記載すること。

担当課:記載する。

#### まちづくり推進課実施の事業

##### (17) 広域連携による観光プログラムの企画・周知・運営

担当課:<広域連携による観光プログラムの企画・周知・運営について説明>

竹島委員:予算の記載が無いが、この事業は平成 29 年度で終了か。

担当課:“すむ・奈良・ほっかつ！～移住プロジェクト～”の内容。平成 28 年度、平成 29 年度は補助金の交付があったので実施した。平成 30 年度も引き続き行う予定ではあるが効果検証等をしてから実施を決めるので現時点では行うかは不明である。

竹島委員:『取組内容』で“当日キャンセル 1 世帯”ということまで記載する必要はあるか。

担当課:キャンセルが無ければ参加定員の満員であったので、ニーズがあったことを示すために記載した。

委員長:平成 28 年度予算について予算欄と目標値欄で差があるのはなぜか。

担当課:予算欄が正しい。目標値欄は誤りであるので訂正する。

委員長:平成 28 年度と平成 29 年度で予算の内訳が大きく変わる理由の説明を求める。

担当課:申請した補助金の種類が異なるために、申請項目に合わせて評価シートの予算内訳も変えた。

委員長:事業内容は変わらないか。

担当課:変わらない。

委員長:予算構成は変わっても、事業内容には変わりがないことを記載すること。文言を見ると平成 28 年度は補助金及び交付金なので他団体へ委託しての実施で、平成 29 年度は町が単独で実施するということか。

担当課:北葛城郡 4 町合同で実施する。予算は上牧町が代表町となるため 4 町合同の予算合算での計上となっている。

委員長:事業内容からみて、民間での実施も検討すること。

牧浦委員:この事業ではプロモーションツアーだけか。空き家に関する事業は実施しないか。

担当課:この事業ではプロモーションツアーのみ。空き家に関しては別事業となる。空き家事業は平成 28 年度未実施である。

## 福祉課実施の事業

### (18) 乳幼児教育の充実

担当課:<乳幼児教育の充実について説明>

竹島委員:英知教育とは具体的にどのような教育か。

担当課:外国人の先生と英語の歌を歌ったり、踊ったりという内容。

竹島委員:5 歳児が 60 分授業を容易に受けられるとは考えにくい。授業内容はどのようなものか。

担当課:歌や体を動かす等で英語と接することをメインにしている。英語は単語レベルである。

竹島委員:5 歳児にあった内容で体を動かしたり、単語帳や絵を見て英語を聞くようなものか。

担当課:文字ではなく音、アクセント等の英語が耳から入ることが重要と考える。

委員長:英知教育の実施場所はどこか。

担当課:上牧第一保育所である。

委員長:『英語教育の充実』事業は幼稚園実施で当事業は保育所実施と、町民には区別がわかりにくい。取組内容は“英語知育教育”、“和太鼓による音感”、“健康教育または食育”の3つか。

担当課:予算対象は英知教育と和太鼓による音感となる。食育に関しては、食べ残しをたい肥にして育てるなどして、随時保育士が教えているので予算はかからない。

委員長:英知教育、和太鼓教育の実施回数を『今後の取組方針』ではなく『事業内容』か『達成度』に記載すること。『達成度』には高齢福祉のことではなく英知教育や和太鼓を主に記載すること。

担当課:そのように記載する。

委員長:全て委託事業か。

担当課:そのとおりである。

## 4. 今後について

- ・ 第 1 回第 2 回の事業評価シート(検証後修正版)と 11/28 ホームページ掲載予定の第 2 回議

事録の訂正等は事務局へ連絡する。

- 本日検証分の事業評価シート(検証後修正版)は議事録とともに12月10日頃に各委員へ郵送する。
- 今後意見が出た場合には、各委員と事務局間での書面のやりとりとする。
- 委員会の意見を反映させた最終版を平成30年1月(予定)にホームページで掲載することで完結とする。

以上